

1 新川崎・創造のもりの整備経過について

- 「新川崎・創造のもり」(広さ約8.1ha)では、**産学官の連携**による、新しい科学・技術や産業を創造する**研究開発拠点の形成等**を目指し、平成10(1998)年度から段階的な施設整備を推進
- ・ 平成12(2000)年に**慶應義塾大学新川崎(K²)タウンキャンパス**を開設し、川崎市との連携のもと、主に理工学系の研究室等が研究開発プロジェクトを展開
- ・ 平成15(2003)年にかわさき**新産業創造センター本館(KBIC本館)**を開設し、インキュベーション機能の他、工作機械の技術講習会など、地域の中小企業向け研修会を実施
- ・ 平成24(2012)年に**ナノ・マイクロ産学官共同研究施設(NANOBIIC)**を開設し、4大学ナノ・マイクロファブ리케이션コンソーシアム(慶應義塾大・早稲田大・東工大・東大)と川崎市による**ナノ・マイクロ機器の開放利用を実施**

新川崎(K²)タウンキャンパス
(平成12(2000)年~)
慶應義塾大学の先導的研究施設
16研究室が入居

K²

かわさき新産業創造センター本館
(平成15(2003)年~)
インキュベーション施設
19社、4研究室、4大学が入居

KBIC本館

ナノ・マイクロ産学官共同研究施設
(平成24(2012)年~)
ナノ・マイクロ研究機器の開放利用
ナノテク関連企業等6社が入居

NANOBIIC

NANOBIICオープンラボ
クリーンルーム等に設置した4大学コンソーシアムの36の機器を市内・周辺地域の企業・大学に利用開放

AIRBIC

産学交流・研究開発施設
平成31(2019)年開設予定

2 慶應義塾大学による技術成果について

- ・ 大西公平特任教授によるリアルハプティクス技術を活用した、**モーショントリップ株式会社(代表取締役CEO 溝口貴弘氏)**が平成28(2016)年からKBICに入居するなど、慶應義塾大学発のベンチャー企業が本市インキュベーション施設に入居

タウンキャンパスにおける研究プロジェクト例

ハプティクス研究センター

- ・ 遠方へ力触覚を伝達する**リアルハプティクス技術**を世界で初めて実現
- ・ 同技術により力触覚通信が実現可能であり、産業分野や医療・福祉分野等にも革新を起こすことを期待

フォトニクス・リサーチ・インスティテュート

- ・ 「**超高速プラスチック光ファイバー**」等による**高精細ディスプレイの実現**を目指し、平成29(2017)年10月にNitto / 慶應義塾大学光ケーブルセンターをK²タウンキャンパス内に開設し、平成31(2019)年の**プラスチック光ファイバー量産化**に向けて取組

KBICの慶應義塾大学発ベンチャー例

モーショントリップ(株)

- ・ リアルハプティクス技術の実装を可能にするための**研究開発**から、**キーデバイスである「AbcCore」の製造販売**まで行うベンチャー企業
- ・ 平成28(2016)年1月からKBIC本館に入居

LTaste(株)

- ・ 歯に貼り付けて塩味を後付けする、**全く新しい減塩食品「ソルトチップ」**を開発
- ・ 平成29(2017)年7月からKBIC本館に入居


1 産学交流・研究開発施設「AIRBIC」の整備について


1 事業スキーム

- ・ 川崎市と大和ハウス工業(株)との官民連携パートナーシップ(PPP)手法による合築の大規模R&D施設
- ・ 市有地を大和ハウス工業(株)に賃貸の上、同社が施設全体を建設し(延床面積約27,000㎡)、施設の一部となる公共施設部分を川崎市が取得(約7,000㎡、取得金額約29.5億円)
- ・ AIRBICの公共施設部分は、KBIC本館、NANO BICと合わせた3棟一体の「かわさき新産業創造センター」として、指定管理者が管理・運営(指定期間:平成30年4月1日から5年間)



指定管理者による支援体制

 (公財)川崎市産業振興財団

 バイオ・サイト・キャピタル(株)

 Innovation Factory(株)

 三井物産フォーサイト株式会社

インキュベーション機能の強化

事業成長を加速するハンズオン支援によるインキュベーション機能の強化

オープンイノベーション機能の強化

ベンチャー・中小企業、大学、大手企業とのマッチング支援によるオープンイノベーション機能の強化

2 整備経過

平成26(2014)年5月	産学交流・研究開発施設基本計画策定
平成28(2016)年3月	産学交流・研究開発施設整備事業入札公告
平成28(2016)年7月	落札者決定(整備事業者:大和ハウス工業(株)・大和ライフネクスト(株))
平成28(2016)年10月	施設買取議案議決
平成29(2017)年2月	施設整備工事開始

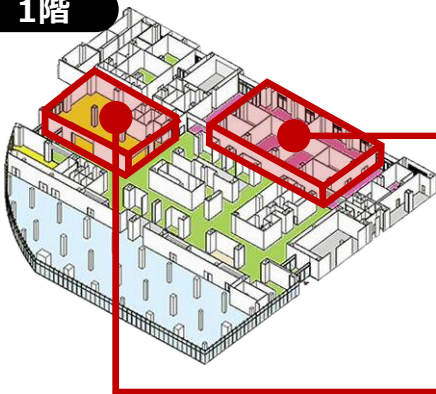
2 AIRBICの施設概要について

1階部分をオープンエリア(共用部)、2階部分を川崎市運営のベンチャー企業向けインキュベーションラボ(かわさき新産業創造センター)、3～5階を大和ハウス工業(株)運営の中長期プロジェクト向け研究開発スペースとして整備

基本スペック

構造	鉄骨造(地下1階・地上5階建)
面積	敷地面積: 約9,200㎡、建築面積: 約5,300㎡、延床面積: 約27,000㎡
最高高さ	27.3m

1階



会議室(川崎市運営)



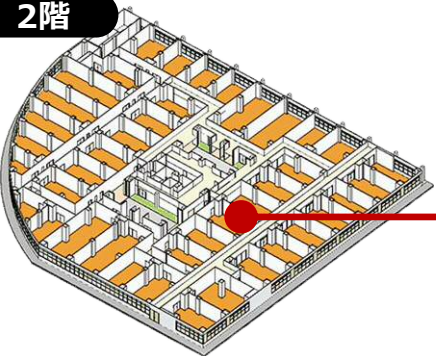
- ・KBIC入居者向け会議スペース
- ・通常は8室の小会議室として利用
- ・最大で約300人を収容可能

飲食・物販スペース(川崎市運営)



- ・最大で約100人が同時利用可能なテラス席付きのレストラン
- ・平成31(2019)年2月オープン予定

2階

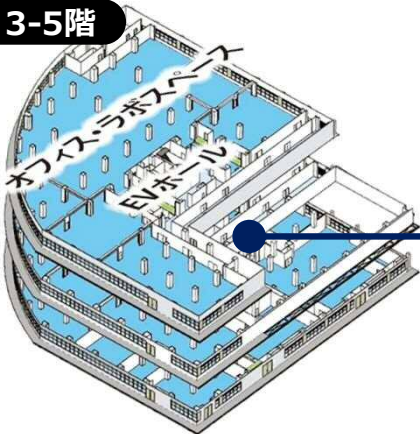


ベンチャー企業向けインキュベーションラボ(川崎市運営)



- ・広さ38～138㎡のラボスペース41室(約3,500㎡)
- ・耐薬品ビニルシート貼りの研究用ラボスペース

3-5階



中長期プロジェクト向け研究開発スペース



- ・大和ハウス工業(株)が運営するラボスペース(約11,000㎡。1階の一部を含む。)
- ・3階に日立化成(株)が入居(つくば市から移転)

3 インキュベーションラボ(川崎市運営)

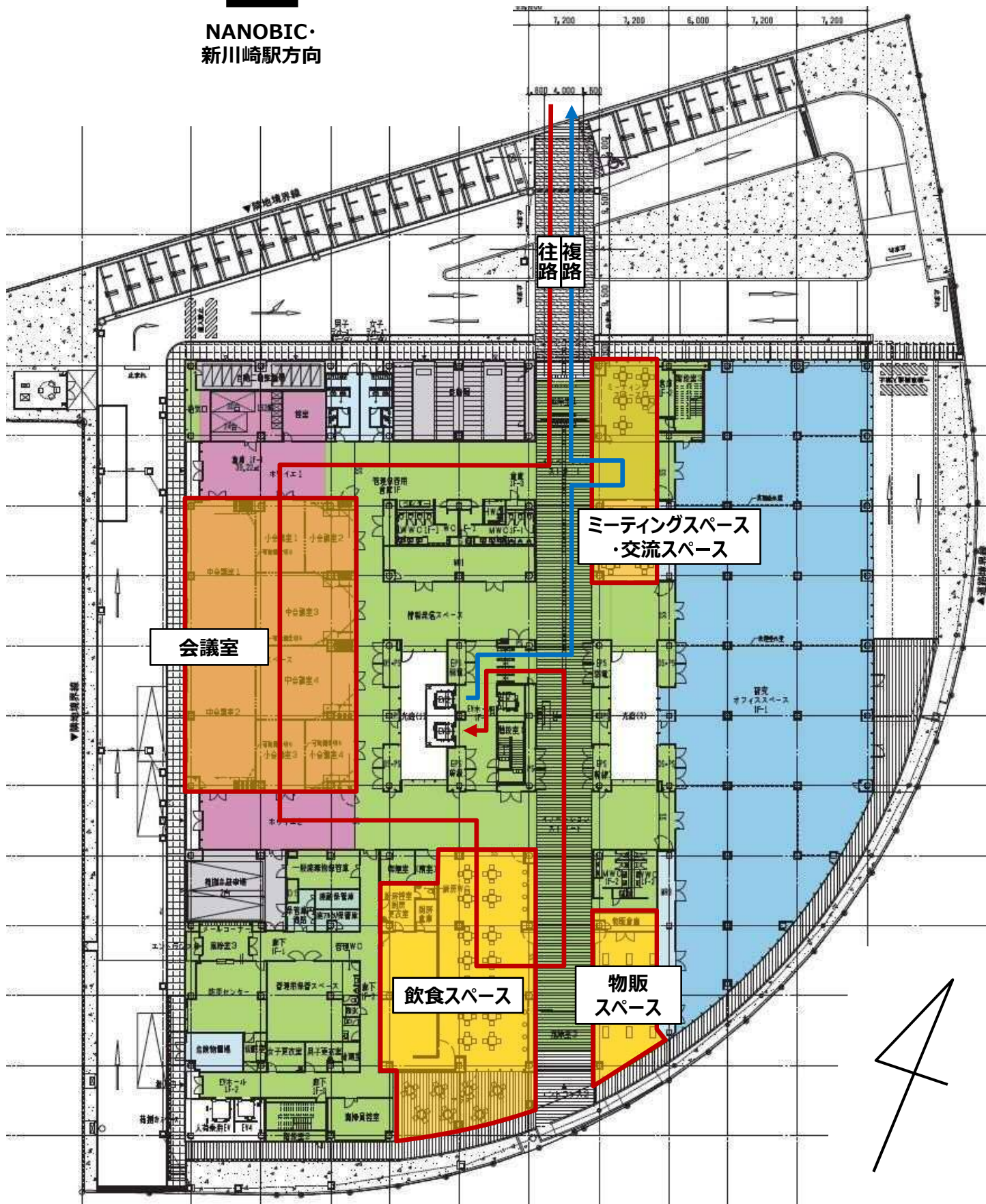
- ・AIRBIC2階の川崎市運営部分は、平成30(2018)年12月に施設完成・市に引渡予定
- ・平成31(2019)年1月から入居開始予定





NANOBIC・
新川崎駅方向

1階



産学交流・研究開発施設「AIRBIC」平面図



NANOBIIC・
新川崎駅方向

2階

